

宮津市養老地区潜水漁業で新たな資源管理を実践

主にアワビを獲る潜水漁業は初期投資が少なく、新規就業者が始めやすい漁法として、沿岸漁業・漁村の振興上、重要な漁業です。一方、漁獲効率がよく乱獲に陥り易いため、適切に資源を利用するルールづくりが重要です。

夏期の潜水漁業が盛んな宮津市養老地区では、当センターの研究結果をもとに令和元年から殻長制限を10 cmから11 cmに高め、安価な3,4歳の小型貝中心から、高価な5歳以上の大型貝を中心に漁獲する合理的な漁業形態となりました。

一方で、近年若手漁業者の漁獲技術が向上しており、過剰漁獲が懸念される状況になってきました。そこで、本年7月1日の解禁に先立ち、当センターと地区漁業者が協議した結果、今期のアワビ類の総漁獲量が500 kgに達した時点で漁期を終了する新しい取り組みを導入することとなりました。その結果、例年は8月中旬まで操業するところを、今年は7月25日に規定量に達し、昨年より多くのアワビを来漁期のために獲り残せたことを確認しています。今後、今期の取り組みの効果をより詳細に調査し、適切な資源管理の継続に繋げていきます。



大型のアワビを漁獲した漁業者（左）と漁獲物調査の様子（右）